

県内経済は、依然として厳しい状況にあるが、生産活動で回復に向けた動きが続いており、個人消費も明るさに拡がりが見られ、雇用情勢に一服感が窺えるものの、総じて持ち直しの動きが見られる。

1. 平成22年 8月の県内経済

消費動向をみると、大型小売店販売額（全店舗ベース）は、猛暑効果から飲食料品、家庭用品等で伸びたものの、合計では2ヵ月ぶりに前年を下回った。乗用車新車販売は、補助金終了前の駆け込み需要から、普通車、小型車、軽乗用車とも前年を上回り、合計では13ヵ月連続で前年を上回った。生産活動は、鉱工業生産指数（原指数）が8ヵ月連続で前年を上回るなど、回復に向けた動きが続いている。投資動向をみると、公共工事前払保証取扱は、請負金額が2ヵ月連続で前年を上回った。建築着工（民間・非居住用）は、棟数が2ヵ月連続で前年を下回った。新設住宅着工戸数は、貸家、分譲が前年を下回り、合計では3ヵ月連続で前年を下回った。負債金額10百万円以上の倒産件数は、13ヵ月ぶりに前年を上回り、負債総額は2ヵ月連続で前年を上回った。雇用情勢は、依然として厳しい状況にあり、有効求人倍率（季節調整値）は12ヵ月ぶりに前月を下回るなど一服感が窺える。

〔消費動向・明るさ拡がる〕

大型小売店販売額（全店舗ベース）は、猛暑効果により飲食料品、家庭用品、家電品等の販売が伸びたものの衣料品が振るわず、全店舗ベースで191億37百万円（前年同月比△0.3%）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。乗用車新車販売は、普通車、小型車、軽乗用車とも、エコカー補助金終了前の駆け込み需要により前年比大幅増となり、13ヵ月連続で前年を上回った。消費者物価指数は、前月比0.4%上昇し、3ヵ月ぶりに前月を上回った。また前年同月比では1.5%下降し、19ヵ月連続で前年を下回った。個別企業の販売動向をみると、家電量販店は、エコポイント効果から薄型テレビが依然として好調を保っており、また猛暑効果からエアコンも大幅に伸び、また冷蔵庫も好調に推移するなど、合計では前年を大きく上回った。ホームセンターは、節約志向が続く中で、家庭用品、園芸が堅調、猛暑効果で家電品、レジャー用品なども前年を上回り推移し、植物、木材塗料、ペット関連などが低調だったものの、合計では前年を上回った。旅行取扱額は、コアとなる国内個人（家族層）が低調に推移したものの、国内・海外の団体が持ち直し、合計では前年を上回った。

〔投資動向・横ばい〕

8月の公共工事前払保証取扱は、件数は4ヵ月連続で前年を下回ったが、請負金額は2ヵ月連続で前年を上回った。7月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数は2ヵ月連続で前年を下回った。床面積、工事費予定額は、2ヵ月ぶりに前年を上回った。8月の新設住宅着工戸数は、持家が前年と同じであったが、貸家、分譲が前年を下回り、合計では3ヵ月連続で前年を下回った。

〔生産活動・回復に向けた動き〕

7月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は、95.8（前月比±0.0%）と横ばいとなった。原指数は101.2（前年同月比+16.9%）となり、8ヵ月連続で前年を上回るなど回復に向けた動きを続けている。8月の大口電力販売量は、9ヵ月連続で前年を上回った。業種的には、非鉄金属や輸送機械で好調が続いている。

〔企業倒産・横ばい〕

8月の負債金額10百万円以上の企業倒産状況は、倒産件数が13ヵ月ぶりに前年を上回り、負債総額も5億円以上の大型倒産が1件発生し、2ヵ月連続で前年を上回った。

〔金融動向・貸出金鈍化〕

8月末の預金残高は前年同月比+1.7%と42ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は同△0.8%と10ヵ月連続で前年を下回った。

〔雇用動向・回復傾向が一服〕

有効求人倍率（季節調整値）は、0.44倍となり12ヵ月ぶりに前月を下回った。原数値では0.44倍となり、5ヵ月連続で前年を上回った。新規求人倍率（季節調整値）は、0.69倍となり、2ヵ月ぶりに前月を下回った。原数値では0.82倍となり、7ヵ月連続で前年を上回った。

県内経済動向の概要

	項目	前年同月比			前月比		
		22年6月	7月	8月	22年6月	7月	8月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	乗用車新車登録台数	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	消費者物価指数（総合）	↗	↗	↗	↗	↗	↗
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	建設着工棟数（民間・非居住用）	↗	↗	—	↗	↗	—
	新設住宅着工戸数	↗	↗	↗	↗	↗	↗
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	↗	↗	—	↗	↗	—
	大口電力販売量	↗	↗	↗	↗	↗	↗
企業倒産	企業倒産件数注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	企業倒産金額注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
金融動向	預金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	貸出金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注3	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	新規求人倍率（パート含む）注3	↗	↗	↗	↗	↗	↗

良化 ↗ 良化傾向にあるがほぼ横這い ⇨ 悪化傾向にあるがほぼ横這い ⇨ 悪化 ↘

注1：前月比は季節調整値、前年同月比は原指数。注2：負債総額10百万円以上。注3：前月比は季節調整値。前年同月比は原指数。

2. 県内経済動向

消費動向

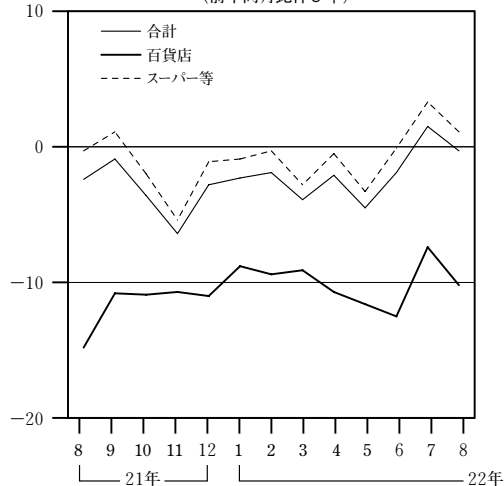
大型小売店 8月の県内大型小売店の販売額は、雇用・所得環境が依然厳しい中、猛暑効果により飲食料品、家庭用品、家電品等の販売が伸びたものの衣料品が振るわず、全店舗ベースで191億37百万円（前年同月比△0.3%）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。一方、既存店ベースでも同1.6%減と21ヵ月連続で前年を下回った。（注：既存店とは調査月において当月と前年同月でともに存在した事業所の数値。）

業態別に内訳をみると百貨店は、衣料品が主力の婦人服などで秋ものの衣料が低調に推移したほか、飲食料品、身の回り品も振るわず、全店舗ベースで21億50百万円（同△10.2%）と、36ヵ月連続で前年を下回った。一方、既存店ベースでも前年同月比2.3%減となり、先月35ヵ月ぶりに前年を上回ったが、再び前年を下回った。

スーパーは、猛暑効果により主力の飲食料品の売上が前年を上回ったほか、盛夏商材（アウトドア商品、レジャー用品、水着・浴衣等）、家電品なども伸び、全店舗ベースでは169億87百万円（同+1.1%）と2ヵ月連続で前年を上回った。一方、既存店ベースでは同1.5%減と、15ヵ月連続で前年を下回った。

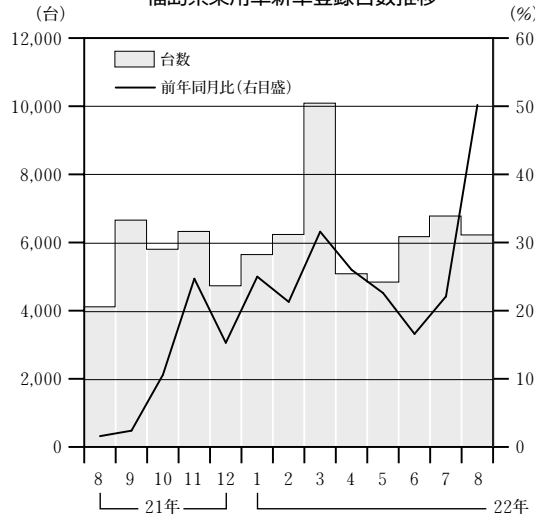
乗用車販売 8月の乗用車新車登録台数（ナン

福島県大型小売店販売額（全店舗）
（前年同月比伸び率）



（資料：経済産業省）

福島県乗用車新車登録台数推移



（資料：㈱日本自動車販売協会連合会福島県支部）

バーベース)は、合計で6,275台(前年同月比+50.2%)と、エコカー補助金終了前の駆け込み需要により前年比大幅増となり、13ヵ月連続で前年を上回った。車種別で見ると、普通車は1,892台(同+66.5%)と14ヵ月連続で前年を上回った。小型車は2,451台(同+51.9%)と13ヵ月連続で前年を上回った。軽乗用車は1,932台(同+35.2%)と6ヵ月連続で前年を上回った。

8月の乗用車中古車販売台数(軽自動車は名義変更を含む)は、合計で8,150台(前年同月比+14.9%)と2ヵ月ぶりに前年を上回った。車種別にみると普通車は2,232台(同+10.4%)と4ヵ月ぶりに前年を上回った。小型車は3,200台(同+17.5%)と2ヵ月ぶりに前年を上回った。軽乗用車は2,718台(同+15.8%)と2ヵ月ぶりに前年を上回った。

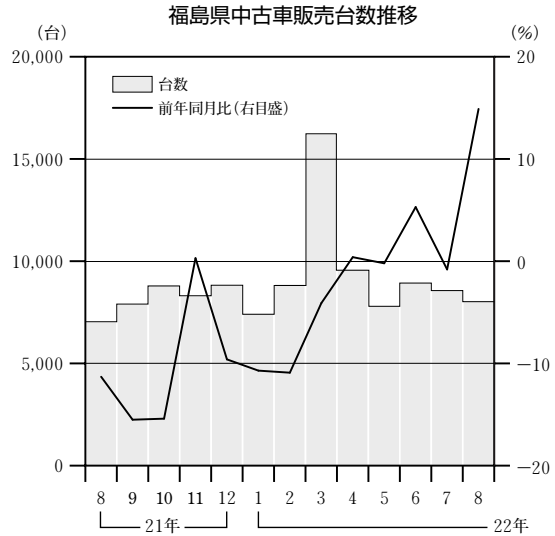
消費者物価指数 8月の消費者物価指数は、総合指数(福島市、平成17年=100)で見ると、99.2(前月比+0.4%)となり、3ヵ月ぶりに前月を上回った。前年同月比では1.5%下がり、19ヵ月連続で下降した。

費目別の指数動向をみると、「食料」が104.0(前月比+1.4%)、「教養娯楽」が95.5(同+0.6%)、「光熱・水道」が107.1(同+0.3%)、「諸雑費」が101.4(同+0.2%)と4費目で前月比上昇した。一方、「被服及び履物」が96.6(同△1.3%)、「保健医療」が96.0(同△0.7%)、「住居」が97.8(同△0.3%)、「交通・通信」が98.2(同△0.2%)と4費目で前月比下降した。また、「家具・家事用品」が88.9、「教育」が82.9とそれぞれ前月と同じであった。

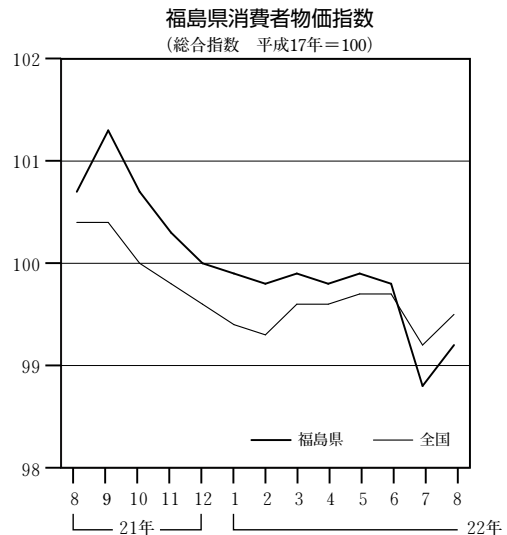
家電量販店 8月の売上状況は、エコポイント効果から薄型テレビが依然として好調を保っており、パソコン、DVDレコーダーも前年を上回った。また、猛暑効果からエアコンも7月に続き大幅に伸びたほか、冷蔵庫も好調に推移するなど、合計では前年を大きく上回った。

ホームセンター 8月の売上は、節約志向が続く中で家庭用品、園芸が堅調、猛暑効果で家電品、レジャー用品なども前年を上回り、植物、木材塗料、ペット関連などが低調だったものの、合計では前年を上回り推移した。

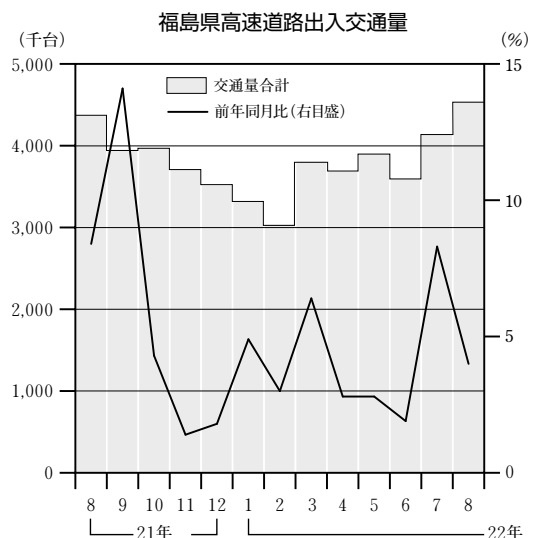
旅行 8月の旅行取扱額実績は、コアとなる国内



(注) 軽自動車は名義変更台数含む
資料: (社)日本自動車販売協会連合会 福島支部
(社)全国軽自動車販売協会連合会



(資料: 総務省統計局)



(資料: 東日本高速道路(株)東北支社)

個人（家族層）が低調に推移したものの、国内団体および海外団体が持ち直し、合計では前年を上回った。

高速道路 8月の県内自動車道出入台数は、「ETC割引制度」の効果に海山への人出増も加わり、4,560,315台（前年同月比+4.0%）と17ヵ月連続で前年を上回った。路線別にみると、東北自動車道（白河IC～国見IC）は2,497,794台（同+4.2%）と9ヵ月連続で前年を上回った。磐越自動車道（いわき三和IC～郡山東IC）は341,187台（同+7.8%）と6ヵ月連続で前年を上回った。磐越自動車道（磐梯熱海IC～西会津IC）は710,262台（同+0.3%）と4ヵ月連続で前年を上回った。常磐自動車道（いわき勿来IC～常磐富岡IC）は1,011,072台（同+5.0%）と17ヵ月連続で前年を上回った。

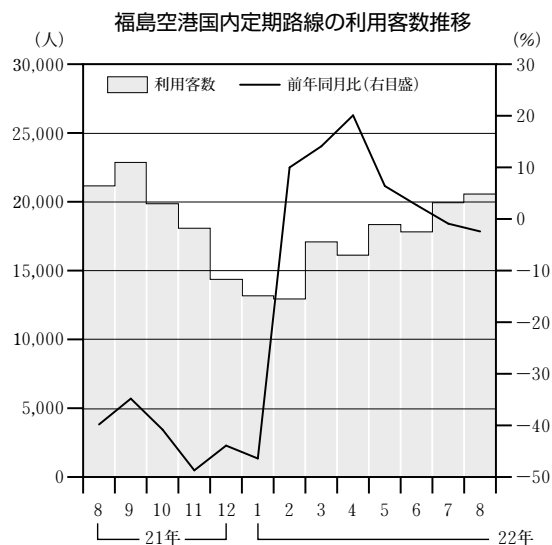
福島空港 8月の福島空港国内定期路線の利用状況は、20,789人（前年同月比△2.4%）と前年を下回った。路線別にみると、札幌便は9,880人（同△16.0%）、大阪便は10,909人（同+14.3%）となった。一方、国際定期路線の利用状況は、5,210人（同+6.3%）と前年を上回った。路線別にみるとソウル便は3,480人（同△6.7%）、上海便は1,730人（同+48.0%）となっている。

—— 投資動向 ——

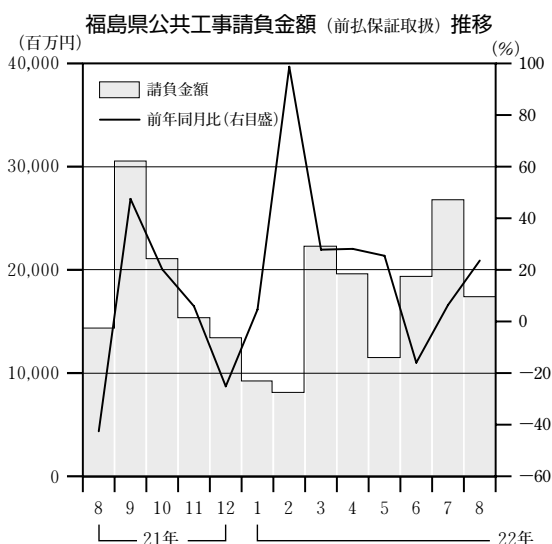
公共工事 8月の公共工事前払保証取扱は、件数が522件（前年同月比△12.7%）と4ヵ月連続で前年を下回った。請負金額は175億28百万円（同+22.2%）、保証金額は67億13百万円（同+16.1%）となり、それぞれ2ヵ月連続で前年を上回った。

なお、年度累計（2010年4月～8月）では、件数が前年同期比99件減少し、2,648件（前年同期比△3.6%）、請負金額が同72億27百万円増加し、952億円（同+8.2%）、保証金額が24億99百万円増加し、350億79百万円（同+7.7%）となっている。

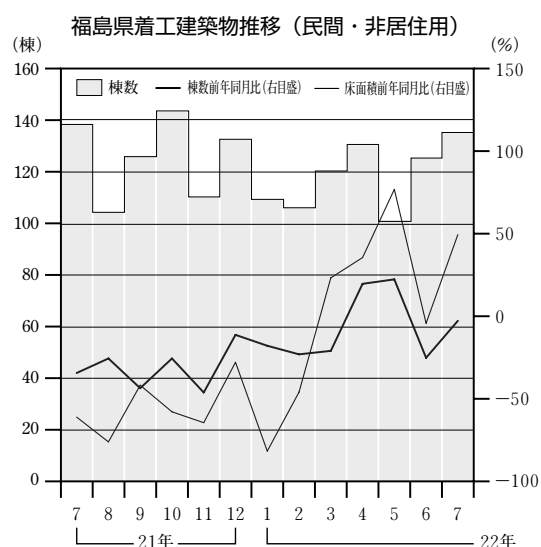
8月の主な発注者別の請負金額は、国が前年比7億25百万円減少し、16億52百万円（同△30.5%）となった。独立行政法人等（東日本高速道路㈱など）は同5億74百万円増加し、11億32百万円



（資料：福島県商工労働部空港交流課）



（資料：東日本建設業保証㈱）



（資料：国土交通省）

(同+102.8%)となった。県は同11億38百万円増加し、52億29百万円(同+27.8%)となった。市町村は同20億18百万円増加し、92億13百万円(同+28.0%)となった。

設備投資 7月の建築着工(民間・非居住用)は、棟数が136棟(前年同月比△2.2%)と2ヵ月連続で前年を下回った。床面積は62,185㎡(同+50.0%)、工事費予定額は99億36百万円(同+61.9%)となり、それぞれ2ヵ月ぶりに前年を上回った。

8月の建築物確認件数(計画変更を除く)は、684件(前年同月比+22.8%)と2ヵ月ぶりに前年を上回った。建築物別にみると、1~3号建物(一定規模以上の建築物が対象)は144件(同+29.7%)と3ヵ月連続で前年を上回った。4号建物(小規模な木造・非木造住宅などが対象)は540件(同+21.1%)と2ヵ月ぶりに前年を上回った。「構造計算適合性判定合格件数」は39件と前月比14件増加し、4ヵ月連続で前月を上回った。

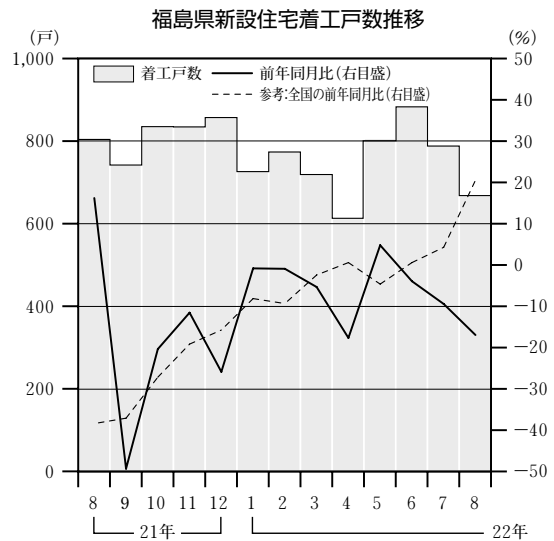
建築物着工の先行指標である8月の建築物申請件数は、722件(同+10.2%)と2ヵ月ぶりに前年を上回った。建築物別にみると、1~3号建物は131件(同+6.5%)と2ヵ月連続で前年を上回った。4号建物は591件(同+11.1%)と2ヵ月ぶりに前年を上回った。「構造計算適合性判定申請件数」は17件と、前月比7件減少し、2ヵ月連続で前月を下回った。

住宅建設 8月の県内新設住宅着工戸数は、668戸(前年同月比△16.9%)と3ヵ月連続で前年を下回った。主な利用関係別にみると、「持家」は472戸(同±0.0%)と前年と同じであった。「貸家」は158戸(同△44.6%)と2ヵ月連続で前年を下回った。「分譲」は37戸(同△21.3%)と2ヵ月ぶりに前年を下回った。うちマンションの着工戸数は、3ヵ月連続でゼロであった。

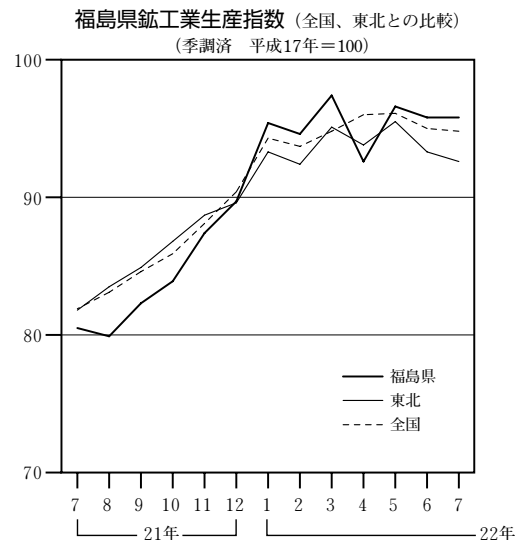
生産活動

鉱工業生産指数 7月の鉱工業生産指数は、季節調整済指数でみると95.8(前月比±0.0%)と横ばいとなった。原指数は101.2(前年同月比+16.9%)となり、8ヵ月連続で前年を上回った。

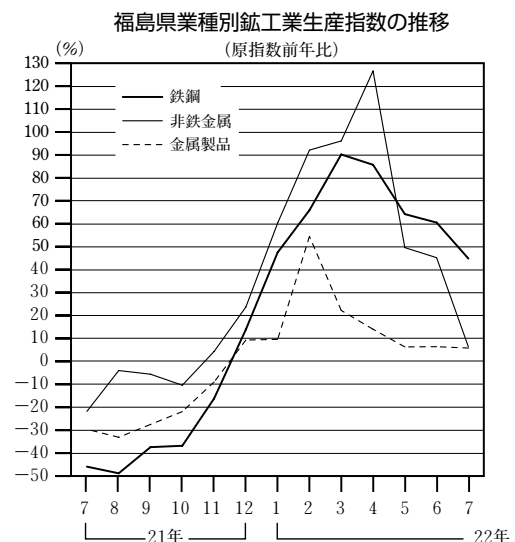
上昇および低下した主な業種別(季節調整済



(資料:国土交通省)



(資料:福島県企画調整部統計調査課)



(資料:福島県企画調整部統計調査課)

指数)では、一般機械工業で135.0(前月比+18.1%)、パルプ・紙・紙加工品工業で89.7(同+5.4%)、情報通信機械工業で130.7(同+4.7%)など7業種で上昇した。一方、印刷業で51.8(同△22.0%)、非鉄金属工業で87.8(同△15.1%)、繊維工業48.0(同△10.1%)など13業種で下降した。

化学 8月の食品包装フィルム用合成樹脂やフッ素樹脂、金属代替プラスチック、医薬品の生産は、好調が続いており、炭素繊維も持ち直しの動きが続いている。酸化チタン(白色顔料、自動車用塗料向け)の生産やバリウム化合物(電子部品原料)の生産は、持ち直しの動きが続いている。

鉄鋼・金属 8月の伸銅品の生産は、半導体向け電子材および自動車向け端子材とも、前年を上回り推移した。建機用鋳造品の生産は、新興国向けが好調、国内向けが低調だったものの、合計では前年を大きく上回り推移した。車両用鋳造品は、新幹線、JR在来線の更新需要に支えられ、堅調に推移した。船舶用バルブ部品および陸上プラント用バルブ部品の生産は、前年をやや上回り推移した。

輸送用機械 8月の自動車用鋳造品の生産は、海外向けが牽引し、前年を大きく上回り推移した。自動車用オイルシールの生産は、国内販売の復調を受け、持ち直しの動きが続いている。

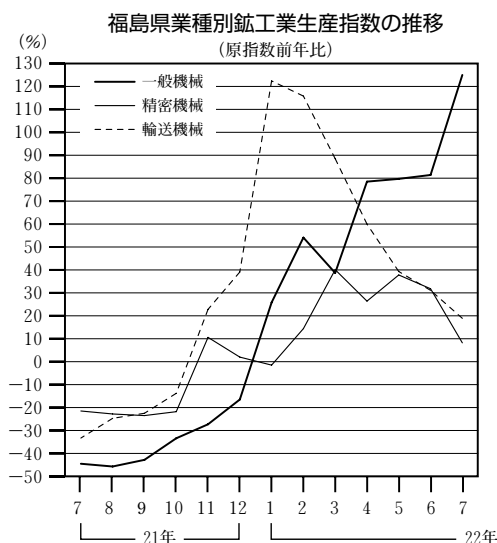
電気機械 8月の自動車モーターの生産は堅調に推移したものの、変圧器、配電盤、電熱炉の生産が振るわず、全体では前年を下回り推移した。

情報通信機械 8月の携帯電話中継局用マイクロ波通信機器の生産は、主力のインド向けが低調、前年を下回り推移した。衛星通信機器関連、FA関連機器の生産は、前年並みの水準で推移した。

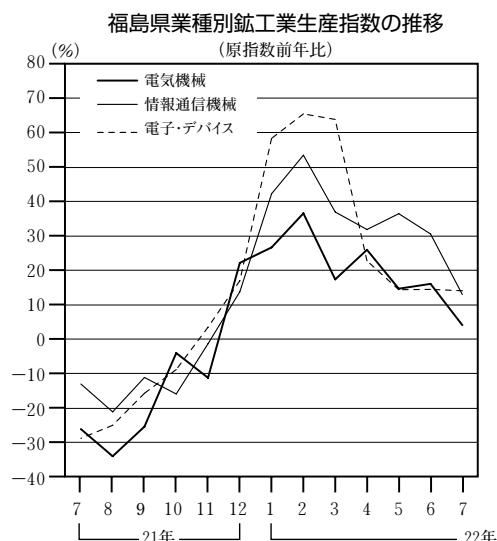
電子部品・デバイス 8月のLSI(大規模集積回路)の生産は、車載品、産業機器、パソコン・OA向け等製品が好調に推移するなど、持ち直しの動きが続いている。

精密機械 8月の医療用内視鏡の生産は、北米向けを中心に堅調に推移し前年を上回った。デジタル一眼レフカメラ用レンズは、持ち直しの動きが続いており、前年をやや上回り推移した。

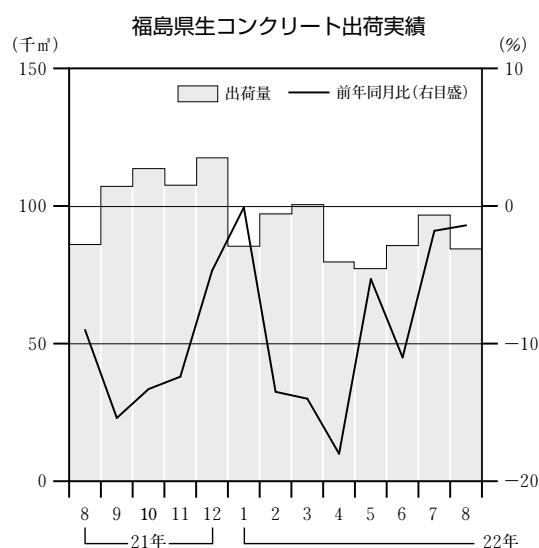
紙・紙加工品 8月のダンボールの生産は、IT向け製品が前年をやや下回り推移した。またノー



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)

カーボン紙、感熱紙、インクジェット紙の生産は、前年をやや上回り推移した。

窯業・土石 8月の生コンクリート出荷量は、全体で85,238^m（前年同月比△1.4%）と17ヵ月連続で前年を下回った。増加地区についてみると、官公需では、県中地区で国道改築工事等、白河地区で地方道改築工事等により、民需では、県北地区で輸送機械系の工場増設工事等、白河地区で建売住宅工事等、会津地区で病院新築工事等、いわき地区で火発増設工事等により増加した。

清酒 8月の清酒移出数量は、860kl（前年同月比△10.8%）と23ヵ月連続で前年を下回った。タイプ別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が332kl（同△6.2%）と4ヵ月連続で前年を下回った。一般酒（特定名称酒以外の酒）は、528kl（同△13.4%）と23ヵ月連続で前年を下回った。

合成繊維物 8月のナイロンの生産はダウンジャケット（表地）向けを中心に、前年を上回り推移した。ポリエステルは、紳士服、婦人服の裏地向けなど前年並みの水準で推移した。

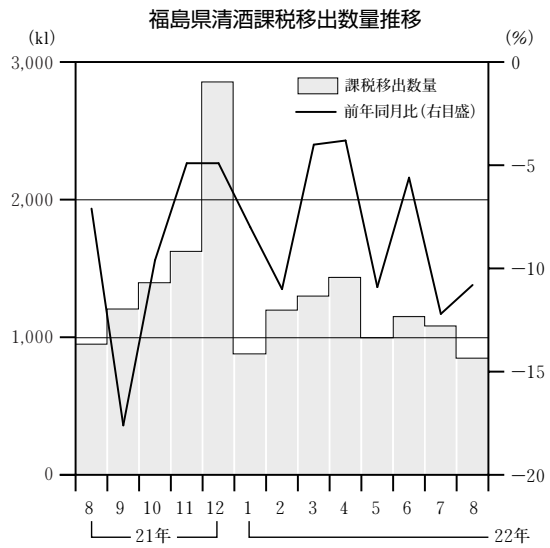
ニット 8月のニットの生産は、冬物生産が中心であるが、国内需要の低迷から、受注・生産は低調に推移した。

大口電力 8月の大口電力販売量は、562百万kw/h（前年同月比+15.0%）と9ヵ月連続で前年を上回った。大口主要販売先を業種別にみると、「非鉄金属」で141百万kw/h（同+42.9%）、「電気機械」で107百万kw/h（前年同月比△10.6%）、「化学」で55百万kw/h（同+14.7%）、「輸送用機械」で54百万kw/h（同+35.1%）、「一般機械」で28百万kw/h（同+29.7%）、「紙・パルプ」で15百万kw/h（同+10.8%）となっており、特に、非鉄金属や輸送用機械で好調が続いている。

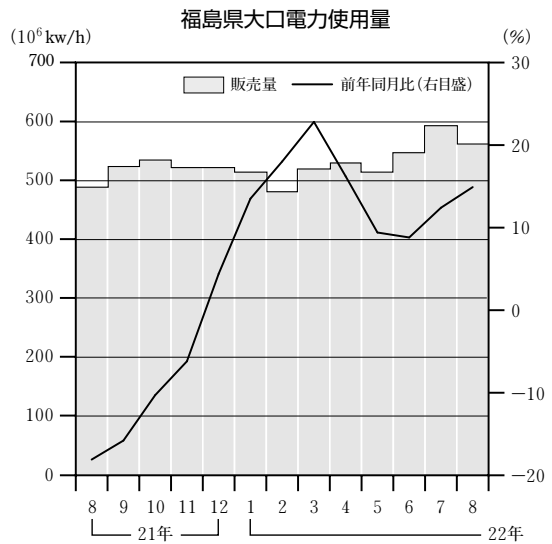
—— 企業倒産 ——

企業倒産 8月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、倒産件数が10件（前年同月比+100.0%）となり、13ヵ月ぶりに前年を上回った。負債総額は、9億69百万円（同+78.8%）となり、2ヵ月連続で前年を上回った。

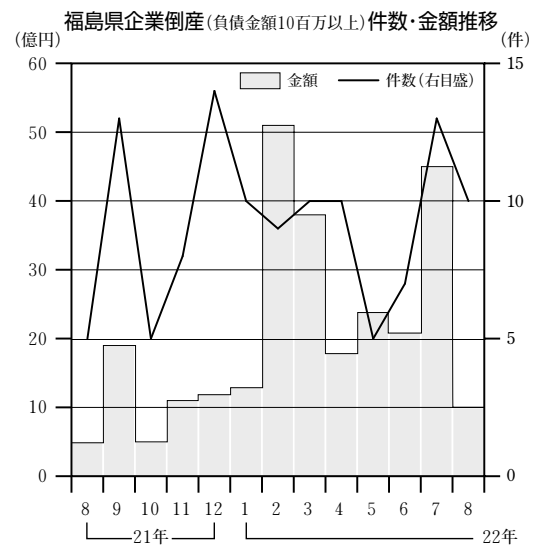
年間累計（2009年1月～8月）では、倒産件数



（資料：福島県酒造組合）



（資料：東北電力福島支店）



（資料：帝国データバンク福島支店）

が前年同期比13件減少し、74件（前年同期比△14.9%）、負債金額が同13億81百万円減少し、219億78百万円（同△5.9%）となっている。

倒産主因別内訳は、10件中9件が受注・販売不振など不況型倒産であった。業種別内訳は、建設業が4件、製造業・卸売業が各2件、小売業・サービス業が各1件となった。また、地区別内訳は、県北（本宮市以北）が4件、県南（郡山市以南）が3件、会津が0件、浜通りが3件となった。

金融動向

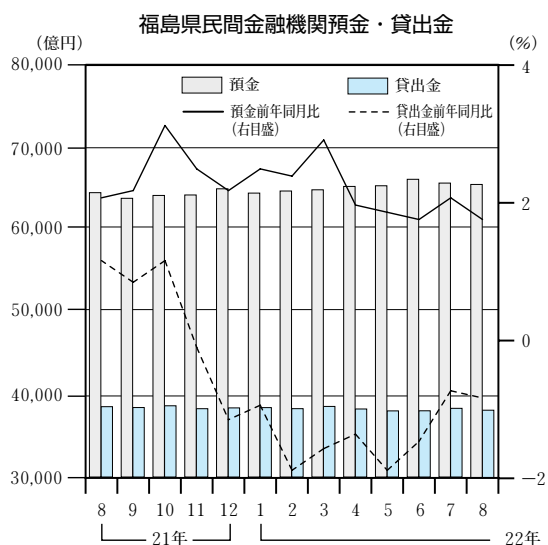
資金需要 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の8月末の預金残高は、6兆5,615億円（前年同月比+1.7%）と42ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、3兆8,214億円（同△0.8%）と10ヵ月連続で前年を下回った。

保証協会 8月の保証承諾は、件数が1,054件（前年同月比△0.8%）、保証金額が103億78百万円（同△2.5%）となった。8月末日現在の保証債務残高は、件数が43,044件（同△1.2%）、金額が3,484億9百万円（同△0.4%）となった。また、8月中の代位弁済は、件数が70件（同△26.3%）、金額が6億36百万円（同△6.1%）となり、それぞれ4ヵ月連続で前年を下回った。

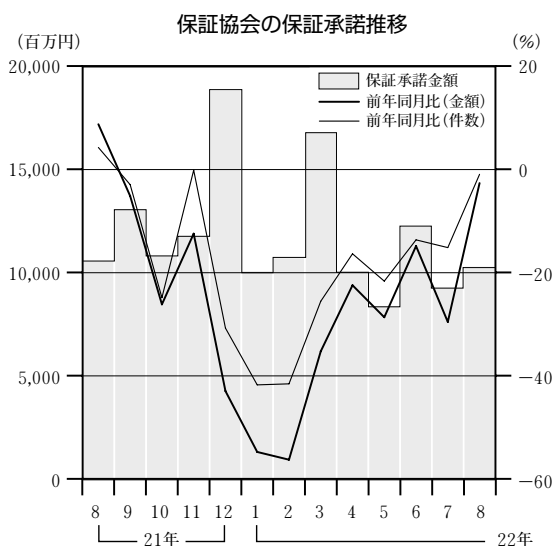
雇用動向

雇用動向 8月の新規求人数（原数値）は、8,608人（前年同月比+16.7%）と6ヵ月連続で前年を上回った。新規求職申込件数（原数値）は、10,514件（同+9.8%）と2ヵ月ぶりに前年を上回った。

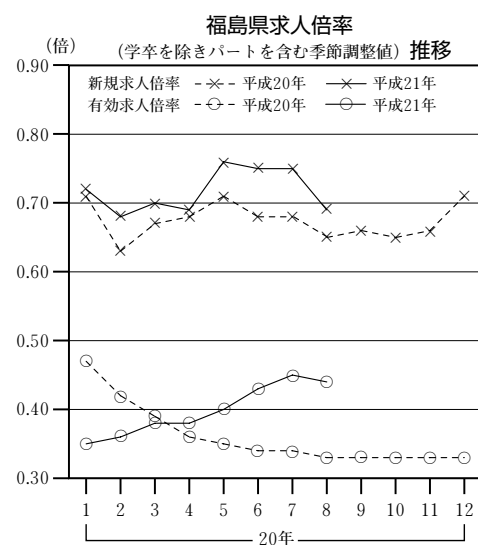
新規求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.69倍（前月比△0.06倍）と2ヵ月ぶりに前月を下回った。原数値は0.82倍（前年同月比+0.05倍）と7ヵ月連続で前年を上回った。有効求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.44倍（前月比△0.01倍）となり、12ヵ月ぶりに前月を下回った。原数値は0.44倍（前年同月比+0.11倍）と5ヵ月連続で前年を上回った。



（資料：日本銀行福島支店）



（資料：福島県信用保証協会）



（資料：福島労働局職業安定部）